

天皇皇后両陛下の本研究科 附属植物園への行幸啓

長田 敏行（植物園 園長）

天皇皇后両陛下は、2006年4月10日（月）、サトザクラ“太白”が満開の植物園を視察された。両陛下は、午前10時に植物園にご到着、小宮山総長、濱田純一理事・副学長、岩澤康裕研究科長、長田敏行植物園長、邑田仁教授らのお出迎えののち、本館前の植物園概略図の前で植物園の歴史と現況の説明を受けられた。続いて、邑田教授ご先導のもと園内を散策され、研究温室では、小笠原諸島の絶滅危惧植物の繁殖と現地での植生の復元事業の概略に耳を傾けられた。ムニンノボタン、ムニンツツジ他の成育の様子をご覧になり、時に高度な専門的質問をされ、両陛下のこれらの事業へのご関心が並々ならぬことを示された。

その後、園のほぼ中央に位置する大イチョウの下で、種子植物で初めて精子が発見され、当時の世界的大発見であったことについて説明を受けられた。さらに、ツツジ園、青木昆陽の甘藷試作記念碑、小石川養生所の井戸をご覧になった。続いて、植物分類標本園・薬園保存園では、なお早春ゆえ未だ葉も広がっていない植物も多いなか、テンナンショウ類、ハチ

ジョウキブシ、シロバナアケビ等をご覧になった。続いて、本館園長室において、お出迎えの5名と懇談され、その席で、小宮山総長より4月10日は御成婚記念日であることから賀詞が述べられた。また、御発の際、両陛下は、お見送りの教職員・学生に対してもお言葉を掛けられ、予定どおり11時30分に植物園を後にされた。



■ ご視察中の天皇皇后両陛下。植物分類標本園において、邑田教授より説明を受けられた。

第9回公開講演会開催される

田近 英一（地球惑星科学専攻 助教授）

東京大学大学院理学系研究科・理学部が主催する公開講演会が、4月21日（金）に駒場キャンパスの数理科学研究科大講堂で行われた。今回は「理学研究のさまざまな面白さ」と題し、理学部で行われている研究の多様性を伝える企画にした。

最初に酒井英行副研究科長から挨拶があり、それに引き続いて駒宮幸男教授（物理学専攻）による「加速器で解明する素粒子と宇宙の謎」、多田隆治教授（地球惑星科学専攻）による「巨大天体衝突による環境擾乱と生物絶滅」、平木敬教授（情報理工学系研究科 / 理学部情報科学科）による「世界最高速の計算と通信を目指して」の3つの講演が行われた。

宇宙や物質の起源、天体衝突と生物絶

滅というきわめて非日常的な話題から、計算機やネットワークという現代社会と密接に関係した話題まで、理学部で行われている研究の幅広さと基礎科学として共通するものの見方・考え方を、分かりやすく伝えることができたのではないかと思います。

当日は天候にも恵まれ、300名近い参加者を集めることができた。開演前から

すでに満員に近い状態で、開演後も続々と入場者が訪れ、大勢の立ち見が出る盛況ぶりだった。これは、公開講演会が定着してリピーターの方々が増えていることと、多岐にわたる宣伝活動の成果と考えられるが、何よりも理学部が一般の方々々に魅力的な話題を提供し続けていることの現れだと思いたい。次回は、今秋、本郷キャンパスで開催予定である。



■ 会場の様子。立ち見も多く大盛況だった

第6回理学部海外渡航制度 (アメリカ)

■ 五所恵実子 (国際交流室 講師)

2006年3月2日(木)から11日(土)にかけて8名の学生がアメリカのUCバークレーとスタンフォード大学を訪問した。このプログラムは海外の大学を訪問することで学生が国際的視野をもち幅広い活動ができるようにという目的で1999年に始まり、これまでのべ57名の理学部生が参加している。

訪問先の大学は東大または理学系との協定校でいずれもアジア、ヨーロッパ、アメリカのトップクラスの大学であり、学生達はその鋭い観察力と感性で現地の大学の研究室や授業の見学、学生との交流等を通して世界に目を向け、10日余りの短い時間にもかかわらずひとりひとりが多くのことを吸収してきている。

学部3・4年生といえば大学院進学も含め将来の進路についていろいろ悩む時期である。将来研究者になるか、あるいは別の道を進むか、日米で悩みは同じようだ。でもアメリカの方が、学部を卒業し大学院やメディカルスクール進学を決定する前に、1年ほど休息し考える、また博士号を取得し民間企業に勤めるといった道が与えられている分、社会に進路の柔軟性と選択肢があるように思う。インターネットを通じて多くの情報を得られる今日だが、それゆえになおのこと国や文化を超えて学生同士が直接出会い、自分達で考え、意見を交換し、互いから刺激を受けて学び合うことは今後ますます重要になっていくのではないだろうか。

訪問先の大学で得られる刺激だけではなく、各回の参加者同士の出会いもまた学生にとっては大きな魅力だったようである。同じ理学部に所属しながらふだん建物が離れているためなかなか他学科の学生と会う機会がないのはたいへん残念なことだが、たとえ少しでも意識して自分の方から他学科の学生や理学系で学ぶ留学生と出会い、互いに切磋琢磨し、ぜひ将来、世界で活躍するような豊かな人間性をもった若者が理学部で育って欲しいと願っている。

プログラム実施に当たりお世話になった東大理学部の先生方、スタッフの皆さん、UCバークレーとスタンフォード大学、LBL、SLACの教職員の皆様に深く感謝するとともに、今回とくにお世話になったSLACの釜江常好先生、スタンフォード大学の山本喜久先生、小宮山尚樹さんにはこの場を借りてお礼申し上げます。第6回の詳細な内容については報告書(問合せ先:国際交流室、[http://www.s.u-tokyo.ac.jp/ilo/home/Toppage\(J\).htm](http://www.s.u-tokyo.ac.jp/ilo/home/Toppage(J).htm))を参照されたい。



■ スタンフォード大学



■ UCバークレーの学生達と

UCバークレー& スタンフォード大学訪問記

稲垣 秀彦 (生物化学科4年)

第6回理学部海外渡航制度では理学部の8人の学生が、UCバークレーとスタンフォード大学を訪問した。両大学は共にカリフォルニア州サンフランシスコ郊外にキャンパスをもつ世界有数の大学だ。カリフォルニアの温暖な気候のもと、日本ではありえないその広大なキャンパスと、ローマ・ギリシャ風やルネッサンス様式で統一された美しい校舎にまず圧倒された。またとくに境界のないキャンパス内と外とを無料バスが何本も走り、大学を囲むようにして寮やシェアハウス用の家が並ぶ、まさに大学を中心とした町並みにも感嘆した。その中で多くの学生たちが生活し、勉強をしていた。この

渡航の目的はそのような現地の学生たちと交流することであった。

10日間の日程の中で、僕たちはキャンパスツアーやドミトリーツアー、研究施設のツアーに参加し大学自体の見学をした。それと同時に、現地の学生たちと教育制度についてのディスカッションを行った。また今回の海外渡航では、今までになかった新しい試みとして、全員での日程とは別に計4回ほど各自で興味のある研究室を訪問する“Individual Visit”の時間が与えられた。この時間もただ研究室を訪問し教授の話聞くだけではなく、研究室内の学生たちと、より自分の興味のある分野について深い話をする事ができた。これらは理学部の海外渡航だからこそできた「個人での大学見学ではできない経験」である。

これを通して僕たちが感じたことは、大学の施設や制度、生活習慣の違いにお

互い驚くことはあっても、学生たちの考えや感じていることにはほとんどギャップがないということだ。大学院進学や就職に悩み、研究者としてのポストや収入の厳しさに向かい合う。その反面、自分の研究について生き生きと語る彼らの姿は理学部の友人たちや先輩たちの姿かぶっていた。研究者として今後あゆんでいくか決定するこの時期に、文化背景の違う学生たちと話す機会をもてたのはひじょうに幸運だった。また安直にアメリカのほうが研究環境がよいと思いつつ傾向があると思うが、雰囲気の違いアメリカの2大学を見学したことで自分の視点で日本とアメリカの大学の違いを評価できるようになったと思う。今回広げられた視野を今後の研究生活に生かし還元していけたらと思う。このような貴重な機会を与えてくださった理学部に謝意を示して文章を閉じたい。

理学部1号館に 理学部年表等の展示が完成

広報誌編集委員会

2006年3月、理学部1号館中央棟1階の多目的ホールに、理学部の概要、沿革、憲章の展示が完成した。

展示は3枚のパネルで構成されており、左のパネルには、理学部の概要と本郷・浅野キャンパス内にある理学部の建物の分布図や、理学部の附属施設の位置が日本地図上に示された施設分布図が掲げられている。中央と右のパネルには、理学部の沿革が、戦前の創始の時代、戦後の発展、大学院重点化・法人化の時代に分けて年表形式でまとめられており、また理学部が全学に先駆けて制定した「理学部憲章」が掲げられている。

小柴昌俊特別荣誉教授がノーベル物理学賞を受賞した研究成果の展示が、昨年3月に、同じ壁面の奥半分

に設置された。

このパネル展示の設置と同時に、ノーベル賞の賞状ケースを本格的なものに新調した(賞状はレプリカ)。そして、この場所を訪れる方々に理学部ニュース(本誌)や公開講演会のチラシ等を配布する目的で、マガジンラックも設置した。すべてガラスを基調としたデザインに統

一されている。

ノーベル賞メダルはこれまで本物が展示されており、保安上、平日のみの公開であったが、4月1日よりレプリカの展示となり、土日にも公開されることになった。この展示により学内外の方々に、より一層、理学部について知っていただけると期待している。



理学部1号館中央棟1階多目的ホールの展示スペース「サイエンスギャラリー」